No.64

まいぶん愛知

下懸遺跡（安城市）

（上）土器集積遺構
　窪地に多量の土器が集積された様子が観察できます。出土した器種は豊富で、当該期における土器研究の貴重な基礎資料になり得る内容を持っています。

（下）竪穴住居　平面形一辺5m程度の規模を持っています。

なお、3月10日には現地説明会を開催し、約450人の参加がありました。

下懸遺跡は安城市小川町に所在します。調査の結果、弥生時代終末～古墳時代初期の集落遺跡を検出しました。確認できた遺構には竪穴住居、土坑、土器集積遺構などがあります。

（愛知県埋蔵文化財センター　池本正明）

県内遺構・遺物集成 **No.20**

畿内産(系)土師器

（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員　樋上　昇）

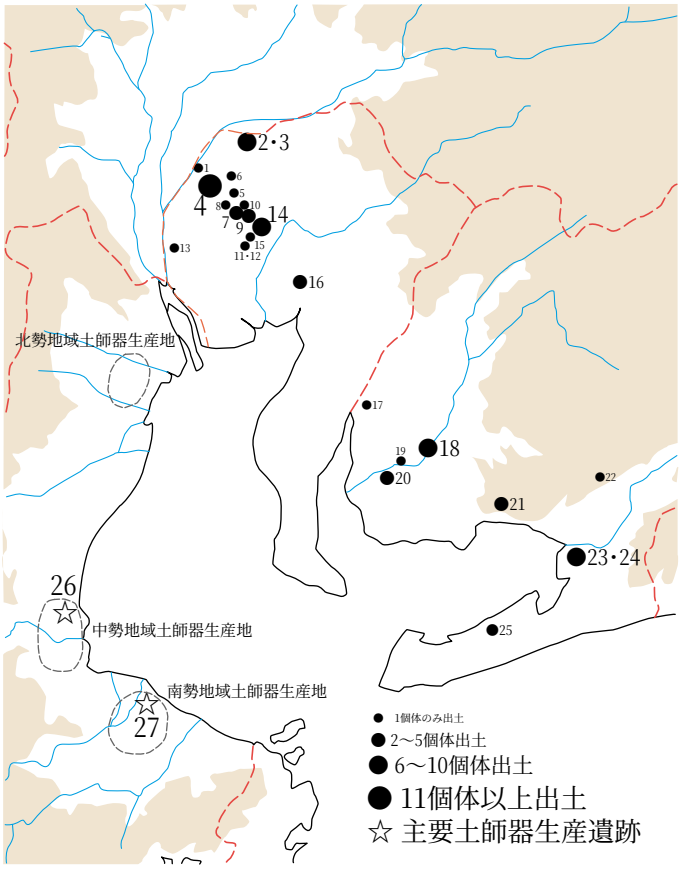

図１　畿内産（系）土師器出土遺跡（番号は一覧表に対応）

畿内産土師器とは、７～８世紀に飛鳥・藤原・平城宮で律令官人層が使用した土師質の食器である。精製されたキメの細かな粘土を用い、内外面には金属器の光沢を模したヘラ磨き（暗紋）を施して、赤褐色に焼き上げる。主要器種には杯・皿・高杯などがある。このような特徴をもつ土師器は、主に畿内で生産され、消費地も都城とその周辺地域に限定される。しかし近年では、都から遠く離れた地方からも出土するようになってきた。林部均氏は、全国各地から出土する畿内産土師器にいち早く注目し、律令国家による地方支配の観点から多くの論考を発表した（林部 1986 ほか）。

その後も全国的に畿内産土師器の出土例が増加する一方で、生産地そのものも畿内周辺には限定できないことが判明してきた。そこで最近では、畿内で生産されたもののみを「畿内産土師器」とし、それを模倣して各地で生産された土器を「畿内系土師器」と呼ぶようになってきた。しかし、この両者の識別はきわめて難しく、「畿内産土師器」と「畿内系土師器」の認識は各研究者によってまちまちである。

写真１　八王子遺跡出土
畿内産土師器杯Ｃ

色調はやや落ちついた赤褐色を呈し、内面には放射状暗紋とラセン状暗紋を施す。色調及び胎土の特徴から、奈良盆地北部で制作された可能性が高い。

表１　畿内産（系）土師器出土遺跡地名表
（尾野善裕氏作成の表に筆者が加筆・修正を行った）

No.	遺跡名	所在地	点数	器種	備考
1	大平遺跡	尾西市三条	1	ⅢA	
2	大毛池田遺跡	一宮市大字大毛	8	杯A・杯B・杯C・Ⅲ・鉢	
3	大毛沖遺跡	一宮市大字大毛	1	杯A	
4	八王子遺跡	一宮市大和町	29	杯A・杯C・Ⅲ・高杯・蓋	郷衙？
5	三ツ井遺跡	一宮市丹陽町	1	杯C	
6	高畑遺跡	一宮市大字大赤見	1	ⅢA	
7	尾張国府跡	稲沢市国府宮町	5	杯C・高杯	尾張国府？
8	東畑廃寺	稲沢市稲島町	1	杯A	寺院
9	北市場屋敷遺跡	稲沢市北市場町	2	杯A・ⅢA	
10	清敷遺跡	稲沢市治郎丸町	1	Ⅲ	
11	大渕遺跡	海部郡甚目寺町	1	杯A	
12	甚目寺遺跡	海部郡甚目寺町	1	器種不明	寺院
13	川田遺跡	海部郡佐織町	1	ⅢA	
14	清洲城下町遺跡	西春日井郡清洲町	9	杯A・ⅢA・高杯・粗製椀	
15	廻間遺跡	西春日井郡清洲町	1	ⅢA	
16	東古渡町遺跡	名古屋市中区	3	杯A(赤色塗彩)	
17	芋川遺跡	刈谷市一ツ木町	1	杯A	
18	矢作川河床遺跡	岡崎市	7	杯A(赤色塗彩)・杯C・ⅢB	郡衙？
19	加美遺跡	安城市小川町	1	杯A(粗製)	
20	住崎遺跡	西尾市住崎町	3	杯C	
21	西川原１号墳	幡豆郡幡豆町	4	杯A・杯C・蓋	横穴式石室墳
22	膳棚２号墳	宝飯郡一宮町	1	杯C	横穴式石室墳
23	市道遺跡	豊橋市牟呂町	9	杯C・ⅢA	渥美郡衙・寺院
24	さんまい貝塚	豊橋市牟呂町	1	杯C	
25	山崎遺跡	渥美郡田原町	2	杯C	
26	片野遺跡	三重県一志郡一志町			土師器生産遺跡
27	北野遺跡	三重県多気郡明和町			土師器生産遺跡

県内の「畿内産(系)土師器」出土遺跡

尾野善裕氏と筆者の集成では、愛知県内から25遺跡94点の「畿内産(系)土師器」が出土している（表１・図１）。三河よりも尾張に多く、しかも当時、尾張国府が置かれた中嶋郡を中心に、葉栗郡から海部郡北部に密集する。この一帯は７世紀末～８世紀前半に建立された古代寺院が特に集中する地域でもある。

大半の遺跡からは杯Ａ・Ｃか皿Ａが１点しか出土しないのに対し、一宮市八王子遺跡では29点と多く、器種も高杯や蓋などバラエティーに富む。一宮市大毛池田遺跡や西春日井郡清洲町の清洲城下町遺跡、豊橋市市道遺跡、岡崎市矢作川河床遺跡、稲沢市尾張国府跡からも５点以上の畿内産(系)土師器が出土している。これらの遺跡の多くは国府・郡衙・郷衙など、官衙的性格をもつ。また、西川原１号墳は４点の畿内産(系)土師器とともに帯金具が出土したことから、律令体制に組み込まれた地方豪族層の墓である可能性が高い。

「畿内系土師器」の生産地

「畿内産」と「畿内系」の識別は困難だが、なかにはほぼ確実に「畿内産」と推定できる例もある（写真１・図２左列）一方、あきらかに「畿内産」以外の一群も認められる（同右列）。さらに、「畿内産」の特徴を多く備えながらも、胎土や色調が異なる土師器群が少なからず存在することも最近わかってきた。それが「伊勢産」畿内系土師器である。「伊勢産」畿内系土師器にはおおまかに３ヶ所の生産地が考えられる（三重県埋蔵文化財センター 1998）。

多気郡明和町の北野遺跡に代表される南勢地域は、斎宮への供給を主体とする土師器生産地で、色調が明赤褐色を呈する特徴がある。愛知県内では、八王子遺跡でその可能性をもつ皿が１点出土している（図２中列下）。一志郡一志町の片野遺跡を中心に、一志郡内に展開する中勢地域では、一見すると畿内産とは識別できない土師器を生産している。しかし胎土・色調に特徴があり、外面に黒斑がつく例も多い。また粗製椀も生産する。清洲城下町遺跡出土土師器の多くはここで製作された可能性が高い（同列上・中）。大毛池田遺跡にもこの地域産の土師器がある。北勢地域にも複数の土師器生産遺跡が存在するが、実態は不明である。赤色塗彩の土師器（名古屋市東古渡町遺跡・岡崎市矢作川河床遺跡から出土）や、胎土に砂粒を多く含み、やや厚手で重いつくりのもの（佐織町川田遺跡出土の皿Ａなど）はこの地域から出土する土師器に似ている。

現在、八王子遺跡の報告書作成に向けて、これら土師器の胎土分析をおこない、生産地の識別を進めている。しかし、伊勢産以外にまだおおまかな産地の推定すらできないグループ（図２右列）も多数存在する。これらについては、尾張での在地生産の可能性のほか、美濃・三河・遠江・近江など、複数の生産地を視野に入れた研究を進めていく必要がある。また畿内以外の地域で、なぜこのような土師器が生産されたのか、さらに尾張・三河から「畿内産(系)土師器」が出土する意義についても考えていかねばならない。

林部　均 1986「東日本出土の畿内産土師器」『考古学雑誌』第 72 巻 1 号
三重県埋蔵文化財センター 1998「土師器焼成坑と古代土器の生産と流通」『研究紀要』第 7 号
上村安生 2001「南勢地域の伊勢産土師器について」『第 98 回古代の土器研究会』発表要旨
尾野善裕 2000「尾張・三河地域（愛知県）出土の“畿内産土師器”」『古代土師器の生産と流通』奈良国立文化財研究所所内特別研究　資料

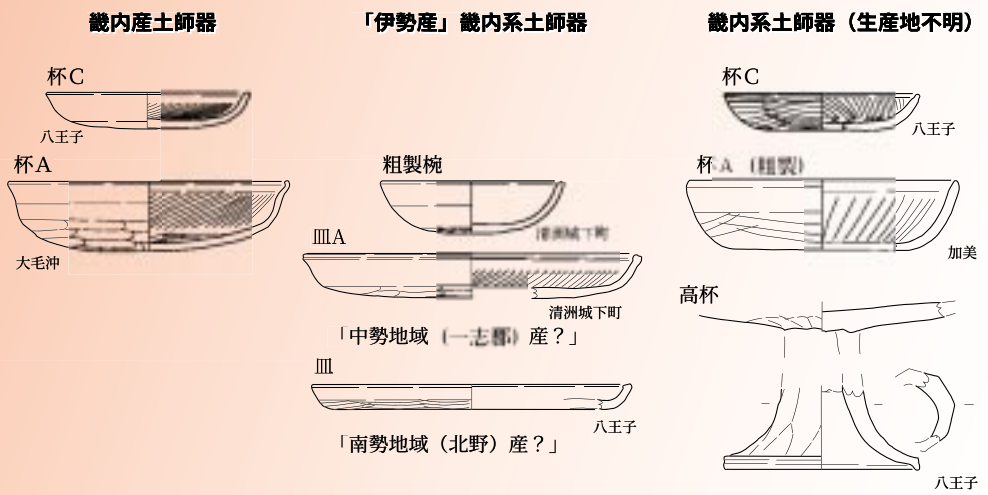

図２　畿内産（系）土師器実測図（1：5）

豊田市鴛鴨町に所在する川原遺跡は、第二東海自動車道豊田ジャンクション建設に伴い平成９年から10年にかけて発掘調査を行いました。調査終了後、報告書作成のための整理作業を続けてきましたが、その作業中に弥生時代後期前半（２世紀前半）に比定される遺構中より、ちょっとかわった土器が出土していることがわかりましたので紹介します。

写真でみると何の変哲もない土器片（高杯の口縁部）のように見えますが、よーくみると、口縁部から1本、縦方向に黒い線が書かれています。この黒い線、まるで筆を使って書いたように先端と終わりの部分が細く、真ん中部分が微妙に膨れています。文様でしょうか？、記号でしょうか？、それとも文字でしょうか？。この黒い線の正体を明らかにするために、線の一部をほんの少しだけ削り取って科学分析を行いました。分析の結果は、「単純な炭ではなく、なかに有機物が含まれており墨の可能性も考えられる」という非常に興味深いものでした。なんとこの黒い線は、墨を使用して書かれた可能性がでてきたのです。

墨と**筆**、この両者が揃えば、その先にはそれらを使用して文字や絵を描いた弥生人の姿が浮かんできます。現在のところ、国内で墨を使った文字や絵画の出現は、三重県の貝蔵遺跡で３世紀前半の壺に描かれたものが最古でした。今回の川原遺跡で出土した墨書土器は、確実に文字や絵と呼ぶには根拠が乏しいものがあります。しかし、少なくとも墨と筆を用いて書かれた可能性は高く、貝蔵遺跡出土資料よりもさらに100年程遡る点が重要で、国内における文字の普及等を考えるうえで貴重な資料になると言えましょう。

（愛知県埋蔵文化財センター主査　服部信博）

編集後記

愛知県の西端にある当センターですが、今年も多くの利用者がありました。見学を希望される方には報告書作成にかかわる遺物整理室・収蔵庫・展示室などを案内しています。さて、30人前後で来られた格段に小さな研究者達は、自分が入ることができそうな大きな須恵器の壺や甕に特に熱心でしたし、「家にもあるー！」と口々に激えて（？）くれました。整理補助員さんが仕事する手元にも謎がいっぱいで、おそるおそるふれた「どき」や「せっき」の感触は、さらなる好奇心へと結びつくようです。緊張もほぐれて質問やご意見が噴きだすのはちょうどこの辺りから…。

まいぶん愛知　No.64
発行　平成13年3月31日
編集　(財)愛知県教育サービスセンター
　　愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017
愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24
TEL 0567-67-4163　FAX 0567-67-3054
http://www.maibun.com　E-mail:doki@maibun.com
印刷　クイックス